

# 領域「言葉」における学生の絵本の選択理由の検討

森 希理恵

## 1. 目的

絵本は、ほとんどの保育所や幼稚園、認定こども園での保育活動に取り入れられている教材である。また児童文化財としても、子どもの言葉や感性、想像する楽しみを育てるものとして認識されており、保育内容領域「言葉」のねらいにおいても、『保育所保育指針』および『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領』では1歳以上3歳未満児の項目で「絵本や物語等に親しむとともに、言葉のやり取りを通じて身近な人と気持ちを通わせる」<sup>1,2</sup>、3歳以上児では2つの指針・要領に加えて、『幼稚園教育要領』にも「日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、保育士（幼稚園教育要領では「先生」と表示）や友達と心を通わせる」<sup>3</sup>と、乳幼児教育・保育における絵本の必要性が示されている。

また、絵本の読み聞かせは子どもの発達にもさまざまな効果をもたらすといわれており、絵本の読み聞かせについての先行研究においても読み聞かせの効果についての論文が散見される。読み聞かせについて、森谷は『幼児の言語習得における絵本の役割』（2002）で、「読み手である大人が意図をもって絵本を読むことが重要とされる」<sup>4</sup>と述べている。

他にも、絵本と読者との関係性について、松居直は「絵本は、子どもが生まれてはじめてであう“本”であり、絵本は、おとなが子どもに読んであげる“本”である」<sup>5</sup>と『絵本の与え方』（2000）で述べている。松居は、大人が子どもに絵本の読み聞かせをするという行為がなければ、子どもが絵本そのものを味わうことは不可能だと述べているのである。つまり絵本は、子どものために用意されたものではあるが、絵本の選択や与え方は大人に委ねられているといえる。

このように、絵本は保育に欠かせないものではあるが、子どもがどんな絵本と出会うかは、保育者の絵本選択にかかってくるといっても過言ではないだろう。しかし、実際の保育の現場では保育者がどのように絵本を選択しているのかを先行研究から探してみると、佐藤・松井らが『保育者の絵本選択の理由と経験年数との関連に関する研究』（2007）の中で述べているように、「保育者が絵本の読み聞かせに明確な意図を持っていることは少ない。絵本の読み聞かせにおいて、半数以上の保育者は無意識的に絵本の読み聞かせを行っている」<sup>6</sup>のが現状であると思われる。

また、保育者養成校の学生も養成期間中にいくつかの実習を経験する。その実習において、大半の学生が少なくとも1回は絵本の読み聞かせを行っていると思われる。実習においては、担当クラスの子どもの発達状況やクラスの様子などを把握して絵本を選択することは難しいと思われるが、読み聞かせを行う子どもについての理解をしたうえで絵本を選択し、しっかりと練習をして読み聞かせの実習を行ったという学生がどの程度存在するのか、疑問が残るところである。今福・谷原らは『読み聞かせに関する考察』(2015)で「子どもの心をつかむ絵本の読み聞かせを行うためには、保育者が様々な絵本の中から吟味したものを、入念に下読みをしたうえで実演することが大切である」<sup>7)</sup>と述べているが、実習において絵本の読み聞かせを行う際も同様であると考えられる。

子どもへの絵本の読み聞かせには、“絵本の選択”と“絵本の読み方”の2つの要素があるが、本研究では、学生の絵本の選択理由に焦点を合わせて、将来保育者を目指す学生がどのような視点で絵本を選択しているのかを検討し、絵本に対する学生の捉え方や絵本を選択する時に受けている影響について考察し、今後の保育者養成におけるよりよい指導に向けての課題を探ることとする。

## 2. 方法

筆者は短期大学の保育者養成課程において、保育内容「言葉」の授業を担当している。15回の授業では、まず乳幼児期の言葉の発達過程や児童文化財について学んだ後、中間時点で、各自絵本を1冊選択して持参し、読み聞かせの実践と振り返りを行っている。

その際に絵本の選択シートを事前に学生に配布し、読み聞かせの実践と振り返りを行ったあとに提出させた。選択シートの記入内容は、①絵本のタイトル、②作者名、③出版社、④あらすじ、⑤選択した理由、⑥読み聞かせを行った振り返りの6項目である。⑤選択した理由については自由記述とし、⑥読み聞かせを行った振り返りは、実践を行った後に授業内で記入する時間をとり回収するという流れであった。

また、受講学生がじっくりと絵本を選択できる期間を持てるよう、告知は早めに行い、絵本の選択理由についても複数回のアナウンスをするなどの配慮を行って実施をした。

本研究では、A短期大学の2016～2018年度生で、筆者が担当している「保育内容言葉」の受講学生の提出された絵本選択シートから143人分をまとめ、分析を試みた。

倫理的配慮として、受講学生には、選択理由の記述内容について、授業改善の研究のために使用する旨を伝え、個人が特定されるような記述は使用しないこと、使用を拒否する権利があること、使用の有無が成績には一切反映されないことを説明し了承を得た。また、欠席をして倫理的配慮について説明を受けていない受講生の記述内容については、使用を見送った。

A 短期大学では、選択シート回収時「保育内容言葉」の授業は1年次に担当されており、筆者はその中の前期1コマ、後期1コマを担当していた。

### 3. 結果と考察

#### 3-1. 受講学生が選択した絵本

受講学生の選択した絵本の数は、総数で137冊であった。

受講学生が選択した絵本のタイトルと作者、および出版社、発行年をアイウエオ順でまとめ、以下に掲げる表-1で示す。

表-1 受講学生が選択した絵本一覧

絵本名	作家名	出版社	発行年
あめのひのえんそく	まつおりかこ	岩崎書店	2014
ありがとうともだち	内田麟太郎・降矢なな	偕成社	2003
あれこれたまご	とりやまみゆき・中の滋	福音館書店	2007
いちにちおもちゃ	ふくべあきひろ・かわしまななえ	PHP 研究所	2009
あめのひのくまちゃん	高橋和江	アリス館	2013
いちばんしあわせなおくりもの	宮野聡子	教育画劇	2016
うえへまいりまあす	長谷川義史	PHP 研究所	2003
うちにかえったガラゴ	島田ゆか	文溪堂	2002
うみにいったライオン	垂石眞子	偕成社	2011
うんこ日記	村中李衣・川端誠	BL 出版	2004
おいもをどうぞ	柴野民三・いもとようこ	ひかりのくに	2005
おおかみくん	いもとようこ	ひかりのくに	2015
おさるのジョージうみへいく	M. & H. A. レイ	岩波書店	2000
おじゃまなクマのおいだしかた	エリック・パインダーステファニー/グレアキン	岩崎書店	2016
おっちょこちょいのオットさん	土屋富士夫	佼成出版社	2015
オニじゃないよおにぎりだよ	シゲタサヤカ	えほんの杜	2012
おぼけのてんぶら	せなけいこ	ポプラ社	1976
おべんとうなあに？	山脇恭・末崎茂樹	偕成社	1992
おめでとうくまちゃん	シャーリー・ハレット/デヴィッド・ウォーカー	岩崎書店	2014
おやおやおやつなにしてる？	織田道代	すずき出版	2012
かぼくのはるなつあきふゆ	ひろかわさえこ	あかね書房	1992
がまんのケーキ	かがくいひろし	教育画劇	2009
キッキとネネのかくれんぼ	本田雅也・ももろ	教育画劇	2015
キャベツくん	長新太	文研出版	1980
999 ひきのきょうだい	木村研・村上康成	チャイルド本社	1989
きょうはなにをするの、ペネロペ	アン・ゲットマン/ゲオルク・ハルスレーベン	岩崎書店	2005
きよだいなきよだいな	長谷川撰子・降矢なな	福音館書店	1994
きらきら は・は・歯	室井滋・長谷川義史	世界文化社	2014

きんぎょがにげた	五味太郎	福音館書店	1982
くまくまパン	西村敏雄	あかね書房	2013
クマさんのドーナツ	みやざきひろかず	ひかりのくに	2006
ぐりとぐらのえんそく	なかがわりえこ・おおむらゆりこ	福音館書店	1983
ぐりとぐらのおおそうじ	なかがわりえこ・おおむらゆりこ	福音館書店	2002
くれよんがおれたとき	かさいまり・北村裕花	くもん出版	2015
くれよんのくろくん	なかやみわ	童心社	2001
くろくんとなぞのおばけ	なかやみわ	童心社	2009
くろくんとふしぎなともだち	なかやみわ	童心社	2004
くわがたのがたくん	高塚博成・中川道子	童心社	2001
こねてのばして	ヨシタケシンスケ	プロンズ新社	2017
このママにきーめた!	のぶみ	サンマーク出版	2017
こんとあき	林明子	福音館書店	1989
さつまのおいも	中川ひろたか・村上康成	童心社	1995
11ぴきのねこ	馬場のぼる	こぐま社	1967
十二支のはじまり	いもとようこ	金の星社	2015
10ぴきのかえるのあきまつり	間所ひさこ・仲川道子	PHP 研究所	2010
10ぴきのかえるのうんどうかい	間所ひさこ・仲川道子	PHP 研究所	1999
10+1ぴきのかえる	間所ひさこ・仲川道子	PHP 研究所	1982
14ひきのあさごはん	いわむらかずお	童心社	1983
14ひきのさむいふゆ	いわむらかずお	童心社	1985
14ひきのおつきみ	いわむらかずお	童心社	1988
しろくまちゃんのほっとけーき	わかやまけん	こぐま社	1972
すいか!	石津ちひろ・村上康成	小峰書店	2013
ずっとずっーとだいすきだよ	ハス・ウィルヘルム	評論社	1988
すてきな三にんぐみ	トミー・アンゲラー	偕成社	1969
せかいでいちばんおおきなもの	ケネス・ステイブソン/メアリー・ミッチェル	ドン・ボスコ社	2012
ぞうくんのさんぽ	なかのひろたか	福音館書店	1977
空からのぞいた桃太郎	影山徹	岩崎書院	2017
そらまめくんとながいながいまめ	なかやみわ	福音館書店	2009
そらまめくんのベッド	なかやみわ	小学館	2009
そらまめくんとめだかのこ	なかやみわ	小学館	2000
だあれ?だあれ?	やすいすえこ・つちだよしはる	金の星社	2013
だいすきぎゅっぎゅっ	フリス・ゲイシャト/ミム・グリーン デヴィッド・ウーカ	岩崎書店	2012
たくさんのたくさんのたくさんの ひつじ	のはなはるか	ひさかたチャイルド	2014
たっくんのおしろ	土屋富士夫	ひさかたチャイルド	2010
ちいさなあなたへ	アリス・マギー/ピーター・レイノルズ	主婦の友社	2008
ちいさなくれよん	篠塚かをり・安井淡	金の星社	1979
ちがうねん	ジョン・クラッセン	クレヨンハウス	2012
ちびゴリラのちびちび	ルース・ボーンスタイン	ほるぷ	1978
ちょっとだけ	瀧村有子・鈴木永子	精興社	2007

ツムーリのおうち	とりごえまり	佼成社	2009
でこちゃん	つちだのぶこ	PHP 研究所	1999
トイレいけるかな	わらべきみか	ひさかたチャイルド	1990
どうぞのいす	香山美子・柿本幸造	ひさかたチャイルド	1981
とけいのあおくん	エリザベス・ロバート	福音館書店	2014
とつてもなまえのおおいネコ	ケイティ・ハートネット	評論社	2018
とてもおおきなサンマのひらき	岡田よしたか	ブロンズ新社	2013
ともだちほしいなおおかみくん	さくらともこ・いもとようこ	岩崎書店	1986
どろんこどろんこ	村上康成	講談社	2013
どろんこハリー	ジーン・ジオン	福音館書店	1964
どんぐりむらのぼうしやさん	なかやみわ	学研	2010
とんとんパンやさん	白土あつこ	ひさかたチャイルド	2013
ないしょのおともだち	ビバリー・ドノリオ/バーバラ・マクリック	ほるぷ出版	2009
ななちゃんのおきがえ	つがねちかこ	赤ちゃんとママ社	2015
なみだがぼろんのピンキー・ブウ	マルタ・コチ	学研ワールド	2004
にゃーご	宮西達也	すずき出版	1997
にんじゃべんとう	木坂涼・いりやまさとし	教育画劇	2012
ねずみくんのプレゼント	なかえよしを・上野紀子	ポプラ社	2004
ノントンいもうといいな	キヨノサチコ	偕成社	2001
ノントンのたんじょうび	キヨノサチコ	偕成社	1980
パオちゃんのかぜひいちゃった	なかがわみちこ	PHP 研究所	1988
はじめてのおつかい	筒井頼・林明子	福音館書店	1977
はちやめちやぶたさん	サリー・クラブ/ツリー/バーバラ・ナムベニー	小学館	2007
パパだいすきママだいすき	やすいすえこ・いもとようこ	岩崎書店	1982
はははのはなし	加古里子	福音館書店	1972
バムとケロのさむいあさ	島田ゆか	文溪堂	1996
バムとケロのにちようび	島田ゆか	文溪堂	1994
パンダ銭湯	tupera tupera	絵本館	2013
パンのようちえんえんそくにいく	さとうめぐみ	教育画劇	2015
ピカゴロウ	ひろたみどり・ひろただいさく	講談者	2016
ひげらっぱ	ザ・キャビンカンパニー	ひさかたチャイルド	2016
ひつじの王さま	リウ・イ・グレイク	くもん出版	2015
すてきな三にんぐみ	トニー・アンゲラー	偕成社	1969
ぶたのたね	佐々木マキ	フレーベル館	1989
ふまんがあります	ヨシタケシンスケ	PHP 研究所	2015
プリンちゃんのおハロウィン	なかがわちひろ・たかおゆうこ	理論社	2018
ペコペコぎかな	菅野由貴子	岩崎書店	2012
へそのかくれが	仲西翠・かべやふよう	アリス館	2016
ベッドがいっぱい	ローレン・チャイルド	小学館	2001
ぼくのニセモノをつくるには	ヨシタケシンスケ	ブロンズ新社	2014
ぼくはいったいなんやねん	岡田よしたか	佼成出版社	2016
ほげちゃん	やぎたみこ	偕成社	2011
ぼちぼちいこか	マイク・セイラー/ロバート・グロスマン	偕成社	1980

ほんなんてだいきらい！	バーバラ・ボットナー	主婦の友社	2011
まあるいたまご	西内としお	学研	2018
またもりへ	マリ・ホル・エッツ	福音館書店	1969
ママがおぼけになっちゃった	のぶみ	講談社	2017
みんなでじゃぼーん	やまぐちみねやす	あかね書房	2003
みんなみんなみつけた	木村祐一・黒井健	偕成社	1983
メチャクサ	ジヨザン・アレ	アスラン書房	1993
めっきらもっきらどおんどん	長谷川撰子・降矢なな	福音館書店	1990
もうぬげない	ヨシタケシンスケ	ブロンズ新社	2015
もぐらバス	うちのますみ	偕成社	2010
もしもねずみにクッキーをあげると	ローラ・ジヨフィ・ニューメロフ/フェリシア・ボント	岩崎書店	1999
やまからきたペンぎん	佐々木マキ	フレーベル館	2008
ゆかいなゆうびんやさん	ジャネット&アラン・アルバーグ	文化出版局	1987
ラリーはうそつき	クリスティーネ・ジヨーンズ	辰巳出版	2013
リコちゃんのおうち	さかいこまこ	偕成社	1998
りんごがひとつ	ふくだすぐる	岩崎書店	1996
りんごがひとつ	間所ひさこ	凸版印刷株式会社	1984
りんごかもしれない	ヨシタケシンスケ	ブロンズ新社	2013
わたしがママのこでよかった？	リサ・T・バーグレン	いのちのこば社	2001

筆者が予想していたより、受講学生はそれぞれ異なった絵本を選択していた。前期と後期のクラスで受講学生が異なること、また受講年が異なることを考えると、異なるクラスや受講年で、同じ絵本の選択がもっと重なるのではないかと予想していたが、クラスや受講年が異なっても、選択した絵本は重なることが少ないという結果であった。

そのなかで、複数の受講学生が同一の選択をしていた絵本を表-2に記載する。表-2に示した以外の絵本はどれも選択人数は1人ずつであった。

次に、受講学生が選択した絵本を発行年ごとに分類したものを図-1に記載する。1960年代が5冊、1970年代が11冊、1980年代が19冊、1990年代が16冊、2000年代が36冊、2010年代が50冊という結果であった。受講学生はほぼ2000年以降の生まれではあるが、多くの学生が2000年代以降の比較的新しい絵本を選択していることが分かった。しかし、複数の学生が選択した絵本での年代をみると、2000年代以降の絵本は5冊だけで、残りはそれ以前の発行のものであることが分かった。保育者養成校以外の学生の絵本選択について調査を行っていないため、保育者を目指す学生とそうでない学生の比較はできないが、保育者養成校の学生が読み聞かせの絵本を選択する際に、新しいものに目を向けるだけでなく、時代を超えて読み継がれている絵本を選択することもあるということが分かった。

表-2 複数の学生が選択した絵本

絵本名	選択人数
はじめてのおつかい	4人
いちばんしあわせなおくりもの そらまめくんのベッド バムとケロのさむいあさ	3人
おべんとうなあに？ きんぎょがにげた ぐりとぐらのえんそく くれよんのくろくん こんとあき 11ぴきのねこ しろくまちゃんのほっとけーき すてきな3にんぐみ どろんこハリー とんとんパンやさん ぼちぼちいこか	2人

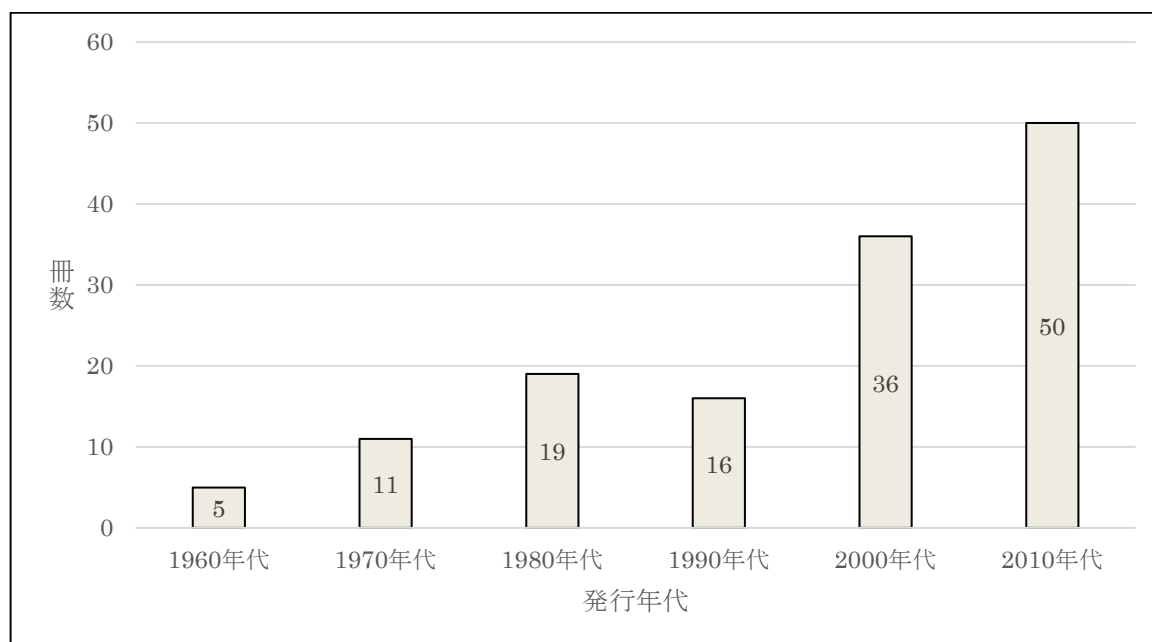


図-1 学生が選択した絵本の発行年

### 3-2. 選択理由

次に、受講学生がなぜその絵本を選択したか、自由記述で書かれた理由についてカテゴリーに分け分析を行った。主なカテゴリーは①絵本の思い出について、②絵の描写につい

て、③言葉の表現について、④お話しの内容について、⑤絵本を通して伝えたいことについてと、カテゴリー化するには難しい内容の記述を⑥その他とした。

それぞれのカテゴリーにみられた記述内容を分類すると、カテゴリーごとの学生数は以下の表-3に示したとおりであった。

表-3 絵本の選択理由

選択理由カテゴリー	記述のあった学生数
①絵本の思い出について	56人
②絵の描写について	40人
③言葉の表現について	23人
④話しの内容について	47人
⑤絵本を通して伝えたいことについて	31人
⑥その他	13人

注：1人の記述の中に複数の理由が記されていた場合も、それぞれのカテゴリーで人数を数えている。

カテゴリーの分類を行う基準として、①絵本の思い出については、子どもの頃によく読んでもらった、よく読んでいた、プレゼントにももらった、初めて自分で選んだなど、自分の成長の過程で何らかの思い出に残っているために選択したという記述を抽出した。

②絵の描写については、絵が可愛い、カラフル、細かい、独特であるなど、絵の描写を選択理由にあげている記述を抽出した。

③言葉の表現については、繰り返しの言葉、擬音が使われている、関西弁が使われているなど、言葉の描写についての記述に加え、文字数が少ない、字が大きいなどの、言葉や文字そのものを選択理由としてあげている記述を抽出した。

④話しの内容については、温かい気持ちになる、ドキドキわくわく感がある、ユーモアのあるストーリー、予想外の展開、身近な題材で親近感がある、シンプルで分かりやすいなど、お話しの内容を理由にあげている記述を抽出した。

⑤絵本を通して伝えたいことについては、道徳的なことや生活面に関する知識など、絵本を通して子どもに伝えたいと思っている内容を選択理由として記述しているものを抽出した。それぞれの選択理由内容については以下の表-4にまとめたものを示す。



表-4 選択理由

カテゴリー	内容	人数
①絵本の思い出について 56人	・子どもの頃読んでもらった ・子どもの頃よく読んでいた	41人
	・プレゼントにももらった、勧められた ・はじめて自分で選んだ	8人
	・劇遊びをして思い出に残っている	3人
	・高校の時、製作で使った ・自分にとって特別のキャラクター ・課題で読み、とても心に残った ・実習で読み聞かせをした	各1人
②絵の描写について 40人	・絵が可愛い	18人
	・カラフルな色使い ・独特な絵が印象的だった	各5人
	・細かいところまで描かれている ・表紙の絵に惹かれた	各3人
	・単純な絵で分かりやすい	2人
	・絵がはっきり描かれている ・賑やかな絵が印象的 ・絵が楽しい ・絵が好み	各1人
③言葉の表現について 23人	・繰り返しの言葉、お決まりのセリフのリズムがよい	5人
	・擬音語のリズムが良い、イメージが膨らむ	4人
	・文字が少なく分かりやすい ・タイトルに惹かれた	3人
	・関西弁がリズムよい、面白い	2人
	・字が大きく分かりやすい ・問いかけがあり楽しめる ・言葉のリズムが良い ・ダジャレが面白い ・簡単な言葉で親しみやすい ・会話文で話に入り込みやすい ・セリフが可愛い ・通常という言葉と違う表現が面白い ・裏表紙の言葉が印象に残った	各1人
④話しの内容について 47人	・身近な題材で親近感がわく、興味を持ちやすい ・温かな・優しい気持ちになれる	各8人
	・ワクワク・ドキドキ感 ・ユーモアのある内容 ・展開が予想外	各5人
	・現実ではありえないのが面白い ・季節の内容	各3人

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シンプルな内容で分かりやすい</li> <li>・発見・想像を膨らませる</li> <li>・シンプルで展開が分かりやすい</li> <li>・共感できる</li> </ul>	各2人
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アイデアが素敵</li> <li>・別の視点で読むことができる</li> </ul>	各1人
⑤絵本を通して 伝えたいことについて  31人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協力して行う大切さ仲間の大切さが学べる</li> </ul>	6人
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人のことも考える大切さ、友だちへ優しくする大切さも学べる</li> </ul>	4人
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ものの大切さが学べる</li> <li>・生活習慣（食事のマナー、清潔、着脱）について学べる</li> </ul>	各3人
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人を見ただ目で判断してはいけないということを伝えることができる</li> <li>・歯の大切さや虫歯予防の大切さが学べる</li> </ul>	各2人
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・謝ることの大切さを感じて欲しい</li> <li>・我慢することの大切さを伝えたい</li> <li>・嘘をついたら駄目だと教えられる</li> <li>・人のものをとってはいけないと伝えるきっかけになる大切なものを貸す勇気、貸してという勇気などが伝わればいい</li> <li>・伝えること、言葉の大切さを知ってほしい</li> <li>・健康であること大切さを感じてもらいたい</li> <li>・恩返しの話から何か影響を受けるのではないかと</li> <li>・当たり前のことこそ一番の幸せがあるということに気づく</li> <li>・失敗が悪いことではないという温かいメッセージ</li> <li>・お母さんの大切さ、家族の大切さを感じられる</li> <li>・知識が増える</li> </ul>	各1人
⑥その他  13人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大好きな絵本だから</li> <li>・パンが好きだから</li> <li>・表紙を見て気になった</li> <li>・名前が自分と似ていた</li> <li>・シリーズが大好き</li> <li>・題名の大坂弁に興味を持った</li> <li>・家族で大切にしていた絵本だから</li> <li>・何度読んでも飽きない</li> <li>・最初の印象が強かった</li> <li>・オオカミの考えかたが好きだから</li> <li>・ないしょという響きがいい</li> <li>・劇などで再現しやすい</li> <li>・同じ年くらいの従妹の女の子を思い出して選んだ</li> </ul>	各1人

選択理由の記述は、①「絵本の思い出について」が一番多いという結果だった。その中でも、「子どもの頃に読んでもらった」「子どもの頃よく読んでいた」が最も多く 41 人が記述していた。また、「11 ぴきのねこ」を選択した学生の 2 人ともが、選択理由に「劇あそびをして思い出に残っている」と記述しており、子ども時代に絵本に触れた時の感動や心地よさ、仲間と一緒に活動した思い出などが絵本選択に影響していると考えられる。

この結果から、絵本選択を行うことは、子ども時代の自分が誰と一緒に絵本と触れ合う時間を持ち、それが自分にとってどのような時間であったのかを振り返る機会となったと思われる。また、子どもに絵本を選び提供する保育者としての将来の自分の姿を想像する機会にも繋がったのではないかと考える。

次の②「絵の描写」について記述していた受講学生のうち最も多かった選択理由は、「絵が可愛い」という記述であった。「癒し系」という言葉が流行っているように、絵本を選択にもリアリティー感のある絵本よりも、イラスト系の「可愛い絵」の絵本を好む傾向がみられた。これは、時代の流行が無意識のうちに学生の絵本選択にも影響を与えていると考えられる結果であった。

また、③「言葉の表現」の選択理由内容については、偏りや突出した記述はみられなかった。その中でも、ことばのリズム感や擬音語の響きなど、言葉の音に関する理由をあげた記述が比較的多くみられ、読み聞かせを行う際に耳に心地よい音の響きのある絵本を学生は選択していたと思われる。他には「文字が少ない」「文字が大きい」など子どもが自分で読むことを想定して絵本を選択したのではないかとと思われる記述もみられた。

絵の描写を選択理由にあげていた学生と、言葉の表現を選択理由にあげていた学生を比較してみると、絵の描写を選択理由にあげていた学生が言葉の表現を選択理由にあげていた学生のほぼ 2 倍近くであった。このことは、学生が絵本を選択する時に、言葉よりも絵の方に重点を置いて選択しているということを表していると考えられる。

絵本における絵と言葉の関係について、リアン・H・スミスは『児童文学論』(1964)の中で、「幼児と絵との関係は、まずその絵からストーリーを汲み取ることにある。子どもは、自分では読むことのできない物語を、その絵が語ってくれることを要求する。絵は、かれにとっては、読書の最初の入り口であり、絵を通して、子どもの興味は惹きつけられる」<sup>8</sup>と述べている。さらにスミスは「絵本とは、二つのメディアによって成り立つものである。つまり、ことばと画材である。絵本を一体のものとしてみる時、文と絵とは、これが融合して、絵本に一つの統一と性格を与えるものであるから、おなじ比重をもつことになる」<sup>8</sup>とも述べている。

また鈴木 (2016) も『保育者の絵本選択における言語表現重視の傾向とその課題』で、「絵本は言葉だけでなく挿絵によっても語られるのである。特に、自分で文字を読むこと

が難しい幼児期においてはその意味するところは大きい」<sup>9</sup>と述べている。スミスは、絵本における絵は読書の最初の入り口であり、子どもは絵を通して興味を惹きつけられると述べ、鈴木は、保育者が絵本を選択する際に言語表現を重視する傾向があるが、絵本は言葉だけでなく、挿絵によっても語られると、2人ともが絵本における絵の重要性について述べている。

「絵本・児童文学研究センター」が主催して2000年に行われたシンポジウムの中で松居が「絵本というのは、絵を見ながら読んでもらうときに不思議な働き、大きな世界をつくっていく。耳で言葉を聞いて、目で絵本の挿絵を見る。実は子どもは挿絵を見るのではなく、読んでいる。絵の中の言葉を読む。そしてまったく同時に耳から言葉の世界を体験する。耳から聞いた言葉の世界と目で見た言葉の世界が子どもの中で一つになる。そこに絵本ができる」<sup>10</sup>と語っており、さらに「耳から聞く言葉が絵をどんどん動かし、広げていく。そういうふうにして子どもは絵本体験をする。そういう体験が実は絵本の本質に触れることである」<sup>10</sup>と述べていることから、本研究において言葉よりも絵を重視して選択をする学生が多い結果となった理由として、絵本を選択する前に授業内で筆者が様々なジャンルの絵本の読み聞かせを行い、松居が言うところの「絵本体験」を学生が体験し、それが絵本の選択にも影響し、絵本を選択する際にもまず絵に興味を惹かれて選択する学生が多かったのではないかと考える。授業時に絵本についての講義だけではなく、実際に何度も読み聞かせをしてもらうという経験が、学生にとって有効に働いた結果であると思われる。

④「話の内容」についての記述は、絵本選択の理由として①「絵本の思い出」に次いで記述をしている学生が多かった。この結果から、絵本を選択する際に、学生が絵本を手に取り、内容を吟味して選択していたことが伺われる。記述されていた選択理由についても、「身近な題材で親近感がわく、興味を持ちやすい」「ワクワク・ドキドキ感がある」「ユーモアのある内容」「展開が予想外」など感情を伴う記述が多くみられ、学生自身が絵本を選択するという行為を通して、絵本を楽しむ経験をし、より絵本を身近に感じる事ができたのではないかとと思われる。ただ単に絵本を1冊持ってくるというのではなく、なぜその絵本を選ぶのかも考えながら選択するという課題を与えたことで、絵本を選択する楽しさの気づきに繋がったのではないだろうか。

一方、⑤「絵本を通して伝えたいこと」に関する記述も数多く見られた。記述内容は様々であったが、「協力して行う大切さ」「仲間の大切さ」「人のことも考える大切さ」「友だちへ優しくする大切さ」など、他の記述内容に比べると、絵本を通して人間関係に関することを伝えたいと考えている学生が多い結果だった。学生の中にも人間関係で苦労した経験のある学生が少なからず存在しているだろう。そのような自身の経験も記述に多少影響し

たとえる。人間関係に関することを伝えたいと考える学生が多かったという結果は、現代の子どもを取り巻く人間関係を反映していると思われる結果であった。

また、松居直は、『絵本とは何か』(1973)において、絵本選択の視点として「子どもの側から発想されている絵本」と「おとなの側から発想されている絵本」という二つの視点を提示している。松居によると「おとなの側から発想されている絵本」とは、「子どもはかくあるべし、人間はかくあらねばならぬといった、やや押しつけ気味の観念的な絵本が多い」<sup>11</sup>と指摘している。この点からみると、本研究における学生の絵本選択も、この「おとなの側から発想されている絵本」の視点に立った絵本選択の傾向を示しているということもできる。

松居は具体的な例として、絵本「おおきなかぶ」の読まれ方について、「ときとして協力ということを教える目的に利用されたりもしますが、この話はそんな道徳的なことを知らせるための話ではありません」「そんなふうに使われ、指導されたとしたら、この絵本はあまり価値がありません」<sup>11</sup>と主張し、ユーモア、サスペンス、訳文のリズムなどの魅力があると『絵本とは何か』(1973)において述べ、「みんなで力を合わせればできる」という道徳的な教材として絵本が読まれていくことを問題視している。つまり松居は、絵本が道徳的な文学教材として読まれることを批判し、幅広い視点で絵本を捉えていくことの重要性を述べているのである。

また、鈴木が『保育者の絵本選択における言語表現重視の傾向とその課題』(2016)において、「保育者を目指す学生たちが活用する絵本の選択において、道徳性を求める『おとなの側からの発想』により、国語教材として採用される文学的な作品に惹かれている傾向がみられた。このように保育における絵本選択で絵本の言語表現に偏重した場合、挿絵や言葉のリズムなどその絵本が持つ子どもにとっての魅力が見落とされてしまう可能性が生じるのである」<sup>12</sup>と述べているのと同様に、本研究においても、絵本の読み聞かせの“ねらい”を求めるあまり、何か道徳的なことや知識を伝えることに重点を置いて絵本選択をした受講学生がいたことが考えられる。

#### 4. まとめ

今回、保育者養成校の学生による絵本選択の理由について検討を行った結果、自分の経験や思い出が一番強く影響していることが分かった。次に話の内容が重視され、加えて絵に興味を惹かれた絵本を選択していることも分かった。しかし、選択理由についてはとても幅広く様々であった。これは、絵本に触れ合う時間を子ども時代にたくさん持った学生と、ほとんど絵本と触れ合わずに子ども時代を過ごした学生とが存在していたことも影響していると考えられる。

子ども時代に誰かに絵本を読んでもらう経験をしてきた学生は、選択理由で一番多かった結果からみても分かるように、絵本選択や読み聞かせの際に自分の経験を投影させることができる。しかし、子ども時代に絵本を読んでもらった記憶や経験が少ない学生にとって、子どもに読み聞かせをする時にどんな絵本を選べばよいのかを考えることは、なかなか難しい課題であったと思う。

昨今、若者の本離れが言われている。インターネットが普及してわざわざ本を持ち歩かなくてもスマホのアプリでどこでも手軽に本を読むことができる時代である。そして、そのような若者が親になる時代がすぐそこにやってくる。そのうち、家庭で子どもを膝に乗せ絵本のページを1枚ずつめくりながら読み聞かせをする姿も見られなくなる時代が来るのかもしれないと思うと、子ども時代に絵本の読み聞かせをしてもらった記憶や絵本と触れ合う経験の乏しい学生が、今後ますます増えていくことも考えられる。

保育者養成校の学生が養成課程において、世の中にはどんな絵本があり、どのような絵本が子どもにとってよい絵本と言われているのかを知る機会をもつことは重要なことである。また、今まで子ども時代に絵本を読んでもらった記憶や経験が少ない学生が増えていくことを考えると、様々なジャンルの絵本を数多く読んでもらう経験を学生が養成課程で持つことも必要であろう。さらに、何を手がかりにして数多い絵本の中から子どもに読み聞かせをする絵本を選択するか、絵本選択の方法を学ぶことも必要であると考えられる。

今福が『読み聞かせに関する考察』(2015)で『「絵本そのものを親しむ」ということは、幼児期の読み聞かせをする際に、基本的な考えである。そのためには、絵本の読み聞かせが義務的なものではなく、楽しむものであることを再確認し、内容理解から切り離して考える機会が必要だと考える』<sup>13)</sup>と述べているように、絵本選択理由においても道徳的な教訓などに絵本の内容が偏り過ぎないように配慮も必要である。絵本の読み聞かせは子どもの言葉を育む大事なものであることを学生が理解し、絵本を選択する際に無意識に働く選択理由の決定にも着目できるよう、学生に指導を行うことが必要であると考えられる。

絵本が子どもたちにもたらす様々な価値に着目し、一つの視野に偏らず広い視野で絵本選択をする力が、保育者には求められる。保育者養成課程で学ぶ学生が、いかにして絵本選択の幅広い視点を培っていけるのか、引き続きの検討が必要であると考えられる。

これまでは、絵本の読み聞かせの実践を行った後、自分自身の実践と他学生の実践をふまえた自己の振り返りを行ってきたが、今回の研究において、読み聞かせだけに焦点を合わせるだけではなく、絵本の選択についても学生が考える時間を持つことは重要なことであることが分かった。

本研究では、学生の絵本選択シートからの検討にとどまったが、自分の選択理由以外にも様々な選択理由があることを知ったうえで、学生自身が自分の選択理由について考える

機会や時間をもつことも重要であり、そのような機会や時間を持つことで、学生の絵本選択理由も変容していくことが可能になると考える。引き続きその変容について検討していくことも必要であると考え。

そして、保育の現場で保育者が思いを込めて絵本を選択し子どもに読み聞かせをする重要性を保育者養成課程においても、もっと伝えていかなければならないだろう。

## 引用・参考文献

1. 『保育所保育指針』、厚生労働省、2017年
2. 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』、内閣府、文部科学省、厚生労働省、2017年
3. 『幼稚園教育要領』、文部科学省、2017年
4. 森谷幸子『幼児の言語習得における絵本の役割』、人間文化 17、2002年、153-160頁
5. 松居直『絵本の与え方』、福音館書店、2000年、2-3頁
6. 佐藤智恵・松井剛太・村上眞生・祝小力・趙京玉『保育者の絵本選択の理由と経験年数との関連に関する研究』、広島大学幼年教育研究年報 第29巻、2007年
7. 今福謙・谷原舞『読み聞かせに関する考察』、大阪信愛女学院短期大学紀要 第49集、2015年 7-13頁
8. リリアン・H・スミス 石井桃子訳『児童文学論』、岩波書店、1964年 205-206頁
9. 鈴木貴史『保育者の絵本選択における言語表現重視の傾向とその課題—保育者養成課程における絵本ビブリオバトルの実践から—』帝京大学紀要 Vol. 12、2016年、147-153頁
10. 河合隼雄・松居直・柳田邦夫『絵本の力』より 松居直『絵本が目覚めるとき』岩波書店、2001年 52-54頁
11. 松居直『絵本とは何か』、日本エディタースクール、1973年 85-89、95頁
12. 鈴木貴史前掲書
13. 今福謙前掲書
14. 青木文美『「心に残る絵本」の発表に見る絵本の捉え方変容過程を追う—絵本の選択力育成に関する一考察—』、愛知淑徳大学論集、2015年、1-14頁